## お客様にとって価値あるイノベーションに挑戦

# 5つの柱の事業戦略「FUSO 2015」

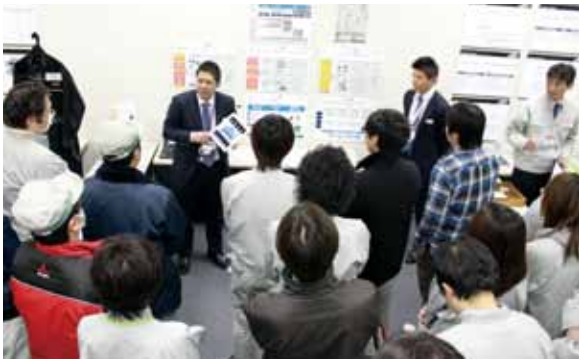
三菱ふそうは、お客様にとって価値あるイノベーションに挑戦し、企業体質、技術力、商品力のすべての面において、常に業界のリーダーシップを発揮できる企業に成長していくための中期目標として、新ビジョン「FUSO 2015」を掲げ、全社員が一丸となって取り組んでいます。

## 走り出したパワーアップフェーズ

「FUSO 2015」は、お客様に満足していただくことに照準を当てた5つのゴールを掲げ、その目標達成に向けて2011年にスタートしました。2012年からはパワーアップフェーズと位置づけ、2014年末のゴールに向けて徐々にスピードを増しながら走り出しています。

「FUSO 2015」では、5つのゴールの下にそれぞれにいくつかの達成すべきサブゴールを設定し、その実現のために必要なイニシアチブ（施策）を、ゴールごとの責任者、イニシアチブリーダー、メンバーが実行しています。

また、社員全員に「FUSO 2015」の各サブゴールについての理解を深めてもらうために、それぞれのサブゴールの体制と戦略を社員全員に提示し、各目標を達成するための具体的な施策や計画を発表するイベント「FUSO 2015 EXPO」を開催しました。



FUSO2015 EXPO会場風景

## 「FUSO 2015」が目指す5つのゴール

- ゴール❶ 業界をリードするグリーン・イノベーション Leader in Green Innovation
- ゴール❷ 顧客満足度No.1 Number 1 in Japan
- ゴール❸ 海外事業の収益性改善 Profitable Global Player
- ゴール❹ 低コスト体質と更なる成長 Efficiency Leader
- ゴール❺ 業界で最も働きがいがあり、誇りがもてる会社 Employer Number 1

## 実施されたイニシアチブの一例

### ■「業界をリードするグリーン・イノベーション」のゴールに向けて

❶太陽光発電による「創エネ」、LEDなどの高効率機器やエネルギーマネジメントシステム（EMS）での「省エネ」を推進しています。

◇整備工場の“グリーンモデル拠点”として、LED・ソーラーパネル・エネルギーマネジメントシステム（EMS）等の環境設備を装備する九州ふそう「八女サービスセンター」を新設しました（2013年3月完成）。

◇LED照明を川崎工場（K1塗装工場、K1正門守衛室、他）や、喜連川研究所（第一整備棟、警備室）、さらに帯広支店、所沢支店、掛川支店などの整備工場、事務所にも設置し、電力使用量を大幅に削減しました。

◇販売拠点に関しては、EMSも一部仙台支店などに導入し、電力削減効果を上げています。

◇2013年には、八女サービスセンターに続いて、川崎工場（K1）にもソーラーパネルを導入し、全国のサービスセン

ターへも引き続き、LED・EMS・省エネ機器を導入拡大予定です。

❷社有車にエコカーを導入し、$CO_2$排出量の削減を図っています。

◇八女サービスセンターの業務車両にキャンター エコ ハイブリッドや電気自動車（EV）を導入しました。

❸サプライチェーンにおけるエネルギーマネジメントを実施し、$CO_2$排出量の削減、環境負荷低減に努めています。

◇今後ミルクランを全サプライヤーへの展開を図り、さらなる部品の輸送効率化と$CO_2$排出量の削減に努めいていきます。

◇完成車の輸送を大型トレーラーによる輸送にするなど、積載車の使用拡大を図り、輸送方法の効率化と積載率の向上によって$CO_2$排出量を削減しました。

◇モーダルシフト（トラック輸送から鉄道輸送への輸送手段の転換）の実施で$CO_2$排出量を削減しました。

◇完成車輸送の関係会社に向けて「交通安全講習会」を開催しました。その中で省燃費運転についての講義も取り入れ、社外に対しても省エネ意識向上を促す取り組みをしています。

**■「顧客満足度No.1」のゴールに向けて**

❶「もっともっとGoodサポート宣言」の“お客様・現場への「5つの約束」”のもと、「当たり前のことを当たり前に行い、お客様に『安心』を提供できる企業」を目標に、販売拠点において「お客様の車両のベストコンディションを守る」「お客様の車両の安定稼働に貢献する」「お客様を迎え入れる現場環境を整える」の3点に重点をおいて改革を進めています。

◇震災後、整備工場の空白地帯になっていた気仙沼に、震災復興車両の整備対応拠点として東北・北関東ふそう石巻支店「気仙沼サービスセンター」を新設しました。

◇「サービス技術コンテスト」を開催し、「頼りになる整備力」の確立を図りました。

◇営業支援ツールとしてiPadを導入し、行動量・提案力の向上を図るとともに、「信頼される営業」の確立に取り組みました。

◇建物の内外装を美しく改修する「クリーン&ペイント」を順次実施し、お客様に気持ち良く拠点に来ていただく環境を整えました。

**■「業界で最も働きがいがあり、誇りがもてる会社」のゴールに向けて**

❶より柔軟性の高い勤務体系の導入や福利厚生の改善など、社員ニーズに合った形に人事制度を強化し、社員満足度の向上を図っています。

◇2012年のEXPOで社員から要望の多かった「在宅勤務」をワーキングチームで検討し、2013年から試行開始しました。フレックスタイム、子育て支援プログラムなどと合わせて、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）の実現を支援しています。

❷社員個人の社会貢献を積極的にサポートするとともに、企業として地域社会への働きかけや関わりにも力を入れ、企業魅力度の向上と社会的責任の推進を図っています。

◇日本におけるダイムラー・グループのジョイントCSR活動として、昨年（2012年）に引き続き、2013年も富士山麓の清掃活動を実施しました。

◇川崎工場K1構内のグラウンドをリニューアルし、緑地率を向上させました（2013年完成）。

## 「FUSO 2015」のゴールに向かって

ソーラーパネルの設置や営業のiPadの導入、在宅勤務の実施などは、「FUSO 2015」の活動の中で社員の提案から出てきたイニシアチブでした。いずれは実行される施策だったかもしれませんが、「FUSO 2015」がきっかけ、けん引力になったことは間違いありません。

部門間を超えてのコミュニケーション・連携が強くなったことも「FUSO 2015」の大きな成果です。みんなが情報を共有し、「FUSO 2015」を“ツール”としてうまく使うことで、従来できなかったことができるという可能性が高まっています。

一人ひとりの社員が「自分が会社を変え、業界をリードしていく」という意識のもと、三菱ふそうは「FUSO 2015」のゴールに向かって確実に前進しています。

FUSO 2015/アジアビジネスモデル推進部
部長 **関岡 雄一**

**【プロジェクト マネージメントオフィスが語る】**

### ゴール間のつながりを意識することで、よりよい成果が得られると思います。

「FUSO 2015」には5つのゴールがありますが、これはFUSO 2015という全社プログラムを管理するうえでのひとつの見方であり、本来個々の活動はそれぞれリンクしているものです。

一つ一つのゴールという枠組みにとらわれず、ゴール間のつながりを意識して展開することで、相乗的に成果が得られるはず。これを念頭に置いて2014年末のゴールに向けて、実行面・コミュニケーションともに加速・強化中です。

別に、インドのDICV（Daimler India Commercial Vehicles）との連携による成長戦略「アジアビジネスモデル」を推進していますが、三菱ふそうにおける「FUSO 2015」の活動、DICVの事業拡大、そして三菱ふそうとDICVの協力関係強化をより総合的・包括的に推進することで、「ダイムラー・トラック・アジア」としてより強力な組織へと生まれ変わると考えています。